

さくら森林組合

【新発田市】



受け口の深さは直径の約1/3。斜め伐りの角度は30度から45度が望ましい。大雨が激しく打ち付ける中、慎重に作業を行う、前田清一さん



④ 組合では個人宅の特殊伐採も行う。周りに建物があり、簡単に伐り倒すことができない木はクレーンで吊りながら上から順に枝を切っていく ⑤ 毎年、胎内市の中条小学校で行われる「つばさっ子秋祭り」では子ども向けのチェーンソー体験学習が大好評 ⑥ 平成25年4月には26年開催の「第65回植樹祭」に向けてのプレイベントを行った。会場は昭和47年に植樹祭が開催された胎内平



① 森林技術員二人で利用間伐を行っていた、新発田市荒川の現場。左の池田さんの手に黄色いクサビが見える ② 伐った間伐材を運びやすいように道路側に向かって木を倒している ③ 倒した後は、断面を確認。基本に忠実な伐り方をした、とてもきれいな切り口

林業の“よろず相談所”として 地域の森林整備活動に力を注ぐ

平成17年に黒川村森林組合（胎内市）、さくら森林組合（新発田市）、北蒲南部森林組合（阿賀野市）が合併し、さくら森林組合を設立。胎内市から阿賀野市まで広範囲にわたり施設を行っている。組合のモットーは「林業に関することなら何でもやる、よろず相談所」。主な仕事は伐採・間伐だが、松くい虫の防除、神社や個人宅の庭木の特殊伐採、薪の販売などの専門業のほかに、地元森林所有者向けにチェーンソーの取り扱い説明会や安全な伐倒技術の講習会を開催。中条小学校の秋祭りでは子どもチェーンソー体験教室が恒例イベントになっている。「木に関することなら何でも気軽に相談してほしい」というスタンスで地域の森林整備に力を注いでいる。

森林技術員は30名。冬は休みを多く取り、夏に出動を増やし年間の作業量を調節することで、通年雇用を実現した。平成22年には念願の高性能林業機械ハーベスタ・プロセッサを導入し、作業の効率化で搬出コストを削減。今後も地域にアプローチしながら林業の魅力を伝えていく。

緑の担い手

～大自然の中で、プロ意識を持って働く人たち～

ストレスのない仕事です



池田 謙一郎 さん

年齢:22歳 林業経験:3年

Ikeda Kenichiro

最初の一日目からとても厳しい仕事で驚きました。チェーンソーで他の人が伐った木を集めるような作業でしたが、その日は雨で普段、山に登った経験もなかったため、足場も悪く、大変でした。今は慣れましたよ。山の中で仕事をしているとストレスが溜まりません。とても静かで、天気の良い日は最高です。先輩たちの期待に応えられるように、一生懸命頑張りたいです。



高く売れる材を出す工夫を



前田 清一 さん

年齢:40歳 林業経験:13年

Maeda Seiichi

木を伐るのも好きだし、重機の操作も好き。この仕事に向いているのかも知れませんが、でも大変な仕事だと思えます。自分の伐り方によって価格が変わるので、その駆け引きも面白い。高く売れるように細心の注意を払い、また、何メートルの材が売れるかなどの情報を収集して、売れる材を出す工夫もしています。これからは若者への技術指導などやっていきたいですね。



【事業体Data】



さくら森林組合

住所／新発田市中倉48番地2 電話／0254-29-0600

設立／平成17年(合併) 資本金／5,330万円

従業員数／37人(森林部門30人)

勤務時間／8:00～17:00 主な勤務地／新発田市、胎内市、阿賀野市

主な従事業務内容／特殊伐採、森林整備、病虫害防除

【事業主コメント】



さくら森林組合

代表理事組合長 五十嵐 弘行

山の仕事は時間がかかる。それが魅力でもあり、難しいところでもあります。しかし、自分がやった仕事は確実に見えるのでやりがいは大い。ぜひ、若者にもっと興味を持ってほしいと思う。この地域は山を持っている人たちが多くいます。何か困ったことがあったら何でも相談できる組合として、地域の方々にとって身近な存在でありたいと思います。



①新発田市上石川のスギ林の伐採現場。ハーベスタ・プロセッサで枝払い・玉切りを行っている ②もう一人はグラブで伐った材を仕分け、トラックに積み込む作業 ③平成22年に導入した高性能林業機械ハーベスタ・プロセッサが作業を効率化 ④左から現場を案内してくれた業務課係長の加藤大樹さんと森林技術員の阿部徹さん